

原島委員提供資料

平成 28 年 6 月 1 日

＜平成 28 年 熊本地震への震災支援活動＞

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の支援活動に平成 28 年 5 月 19 日～5 月 23 日の 5 日間参加させて頂きました。本地震では益城町・嘉島町が重篤な被害を受け、今回は嘉島町へ医師 1 名、理学療法士 2 名にて「東京 JRAT」として、「JRAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)」の活動に参加しました。

嘉島町は、人口が 9000 人余りであり、避難所である嘉島町体育館には家屋の倒壊等の被害によって約 400 人の方が避難されており、5 月中旬の時点では、ライフライン・交通状況は再開し、仕事・学校もほぼ通常通り再開していましたが、日中に避難所には、約 100 名の方がいまだ自宅に戻れず、多くの方が不活動状態に陥っていました。

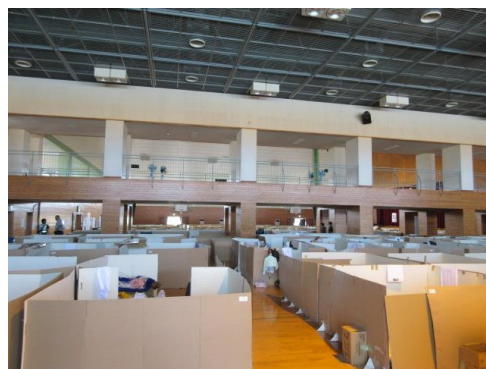
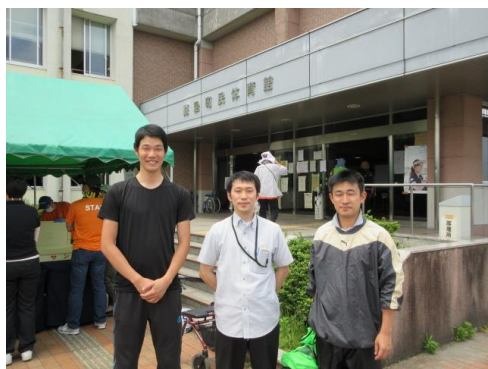
今回の活動には、全国から医師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護士・栄養士等の医療スタッフが支援活動参加しており、職種間で毎日カンファレンス・情報共有しながら避難者の支援を行いました。

実際の活動内容としては、不活動状態の避難者を対象に①医師による診察②理学療法士による身体機能評価③活動（運動）促進による不活動の予防④手すりの設置やベッドの導入など避難所の環境整備を主に行いました。食事などの生活支援がある避難所から今後の生活の自立や仮設住宅へ移行の際の不活動による廃用症候群を予防することも非常に重要で、また深部静脈血栓症や褥瘡の予防など二次的な被害防止の重要性も感じました。

避難所の課題（問題点）は、身体機能低下のリスクが高い高齢者が多く、トイレ・洗面台の不足や、感染症や食中毒など衛生面への配慮が必要である事、（地域の訪問リハビリ・介護サービスは 5 月 15 日に一部のみが再開していますが、現在避難所には支援が届いていない現状もみられていました。）今後は、仮設住宅の設置も進み 6 月初旬から入居の予定となっています。

今回の活動では災害発生時に求められる対応と被災現場の実情を経験し、東京都理学療法士協会災害対策委員会としましても突如、発生する自然災害に対して適切な対応と日々の体制づくりを改めて検討させて頂きたいと思えます。

この度の震災にて被災されました皆様の心より 1 日も早い復興を祈念いたします。



東京都理学療法士協会災害対策委員会 吉田 豊、金子 怜央（総合東京病院）

百崎 良（東京慈恵会医科大学附属第三病院）